
愛してる、ただそれだけ。

蝴蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛してる、ただそれだけ。

【Nコード】

N3113Z

【作者名】

蝴蝶

【あらすじ】

婚約者との気持ちのすれ違いから自らの命を絶とうとしたアリシア。一命はとりとめたものの自分に関するすべての記憶を失っていた。自分の婚約者と名のる男いわく自分は結婚式を目前にひかえて自殺しようとしたとのこと。だがアリシアには結婚などする気はまったくくない。記憶を失っているからだ。なのに彼は記憶が無くてもいい、と結婚をせまってきて…

1話

いつでも傍にいる、そう言ってくれたのは嘘だったのですか？
私だけを永遠に愛すると言ってくれた事ももう信じられない。

陛下。どうかあなたを愛した私がいたことを忘れないで。

あなたが私を愛してくれたように私もまたあなたを愛していました。

どうかお許してください。

この命を絶つことを。

「ここは...どこ？」

私が目を覚ますと見慣れない部屋が私の視界に飛び込んできた。

この家具も壁紙も、何もかも見たことがない。

いや。そもそも見慣れた部屋が思い出せない。

自分が住んでいた部屋が思い出せないなんてありえないはずなのに。

そういえば自分の名前すらも思い出せない。

視界に映る物の名前はわかるが自分のことはわからない。

何故自分はここにいるのだろう。

見るからに値が張りそうな調度品ばかりがならんでいるこの部屋に。

「…っ！」

体を起こそうとした途端、全身に激痛がはしった。自身をよく見てみると腕や脚には包帯が何重にもまかれていた。事故にでもあったのだろうか。

考えをめぐらせていると部屋の扉が開いた。

そこには2人の男が立っていた。

一人は医者のような格好をしていた老人。

自分の状況から判断するに、彼は医者で間違いなさそうだ。

もう一人は一般庶民には手が出せないような高級な生地でできた服をまとっている。

貴族の男だろうか。

その相貌はとても美しく、みていると引き込まれそうになる。蜜を溶かしたかのような甘い金の瞳。

夜の闇よりも深く、艶やかな黒髪。

まるで絵画から抜け出してきたかのようにだ。

二人は私が目を覚ましているのに気づくとぼかん、とした表情になった。

「目が…覚めたのか。」

「なんと！まさに奇跡としか言いようがない！」

次の瞬間、私は男の腕に閉じ込められていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3113z/>

愛してる、ただそれだけ。

2011年12月10日22時54分発行